

はじめに

本資料集は、本校学校裁量『景雲アワー』の中で実践している「自己表現力開発の時間」の活動内容を、とらえやすくまた実践しやすいものに再編集したものである。すなわち、人間が生まれながらにもっている諸機能（集中・感覚・想像・身体・スピーチ・感情・知性）をより豊かに磨き、子どもの調和的な発達を助けるものとして「自己表現活動資料集」第1集を出版し、以後これをもとに3ヶ年の実践をふまえながら、本校でいう「創造的自己実現活動」の充実を図る工を有効な手引きとしてまとめたものである。

第1集でも述べているように、本宮は人間づくりの土台となる7つの諸相を磨く場を子どもに与えることによって、
・自分の心をたがやす、
・自己を出す、
・他とのかかわりを深める、
というはたらきが、活動を通して培われると同時に、一人ひとりが人間としての豊かな個性を発揮し、素直に表出して内面的な感性を開発・充実させるという意図をもったものである。

このことは、例えば次のようなことからみてもいかに子どもの機能を刺激し発達させるかを知ることができよう。

子どもの前に折りたたみ椅子を一脚置いて、「この椅子は何にみだてられるか」と問う。子どもたちは椅子の形からさまざまな想像をかきたてる。「鏡台、乳母車、背負いかけ、駅弁当壺、馬のくら等しめいがない。」

私たちは、さらに相手の気持ちや立場にたってみることが、いかに大切であるかに気づくのである。目の不自由な人を真の意味で理解することは大変むずかしい。しかし、自分の目をタオルで覆い教室の出口へと歩く、自動車のいきかう歩道の前に立ってみるなどは、どんなにか真の意味での理解を助けるものになるか体を通して学ぶことができる。ことばによる皮膚的な理解より、体感に優るものはないといえよう。このように私たちは、子どものもつ諸機能を刺激し、活動や体験を豊かに広げながら、子どもの内面的な感性を高めていこうと実践している。

本年の収穫祭でのプログラムに、いもの収穫にまつわるさまざまな表現活動をしたものがある。Aは夏の日照りの中で、あえぎ苦しみながらも精一杯生きのびながらいもを太らせている姿を、C女は、いものに優しく手を差しのべて水や肥料、日よ

けを施すなど表現していた。いずれもその子なりの感受性を給動員して自己の内的感情をコントロールしながら、全身で表現している姿があった。このような表現には、表現を媒体として自他共に豊かな感性を刺激し、心のひびき合う作用が一人ひとりの心の中にはたらき、緊張の糸で繋がれているようである。これは表現のうまさからではない。一人ひとりともつ鋭い感受性を全身でフルに出して表現していく中で、相手の感情を百分の心で同時に共有することによって生まれる状況ではないだろうか。そこではまた、みんながそれぞれの豊かなイメージと五感をはたらかせながら、集中した状態で見つけ、聞き、感じ、学び合い、共に磨かれていく場となっていく。

私たちは、一人ひとりの子が個性豊かに人間として成長することを願い、「自己表現活動を目的のものにしながら目を磨ぐ喜びを大切にしよう」と考えている。

本書の編集では、特に子どもの実態、反応に応じながら、また、これまでの成果をふまえて、子どもの機能を磨いてどんな資質を育てるかという視点から内容を整理した。さらに題材は第1集にないものに心掛けている。また指導の手引き書という配慮から、第1集と同じく低・中・高学年別に区分している。指導においては、子どもの実態とか指導のあり方などによって多少のゆとりと幅をもった扱いが望ましいと考えている。低学年はこの範囲のもの、中・高学年はこれと限定するものではないからである。本書は1集からみて、次の7点を整理しまとめている。

- ① 題材の活動内容からみてもわかるように、活動そのものが一つの要素で終わるものではない。表現活動は常にいくつかの要素がからみ合いながら行われる場合が殆んどであるといえる。そこで、題材の活動からどんな資質が主要に開発されたり、養われるかという立場から考えて、(ア)気持ち・イメージづくり(集中・感覚・想像)、(イ)身体・言語表現(身体・スピーチ)、(ウ)総合的表現活動(集中・感覚・想像・身体・スピーチ・感情・知性)の3つのグルーピングでとらえなおした。
- ② 学年別の題材は実践の中から子どもの興味、関心、意欲などの実態や活動におけるよろこび、満足感がもてるものを選んでいく。
- ③ 第1集での脱観劇、マトリー・グループ、観づくりに他に参加劇を加えている。参加劇は単にそのものになって演じるという枠にとどまらないで、周囲の子どもまでが相互に磨かれるということにある。先にも述べている

ように、全員が一体になって基本的な要素を失わず参加し表現し合えるという最も好ましい人間的成長の姿がみられるからである。

- ④ 題材の配列は、3つのグルーピングのように、(ア)気持ち・イメージづくり、(イ)身体・言語表現、(ウ)総合的表現活動の順に位置づけ編集している。だからといって指導では(ア)～(ウ)の順序で進めなければならないというものではない。
- ⑤ 各々の題材の左欄には、その活動の主な要素を記入している。また、題材のねらいを明記し、活動の順序や方法をわかりやすく記述した。準備物留意点も書き添えている。
- ⑥ 指導しやすいように活動全体の流れがみえやすく、写真とイラストも入られて実践の姿が感じとれるように努めた。
- ⑦ 教師の意図、ねらい、子どもたちの活動等が充分生きているかの手がかりがもてるように評価の視点、到達させたい反応を記述している。参考にしてとり組むことができよう。

自ら自己の活動をつくる子は、まず自己の心を開く勇気をもたねばならないであろう。私たちは生き生きとした子ども、仲間と共に学び生きている喜びを味わいながら、真に人間らしく生きる生き方を学ぶ原点を求めたいと願っている。この願いを求め日々実践を積み重ねる中で表現活動の理論や方法については、イギリスのBrian Way (ブライアン・ウェイ) 氏の「ドラマによる表現教育」や広島大学教授 黒田耕誠先生から多くのことがらを学んでいる。

昨夏(1982・7・9～12)ブライアン・ウェイ氏が初来日の際、わざわざ本校の実践を視察され、氏の理論と具体的な手法で直接本校の子どもを指導していただく機会が得られた。

私たちはこの学習の中から、表現活動の方向性や指導の方法について理解を深めるとともに、子どもを育てる上で重要であることを再認した。

その活動の成果は、教育の全領域に生かすこともできる。また、学級経営をする上でこの資料が生かされる。例えば、朝の会、終わりの会、学級会等仲間とのふれ合い、相互の心のふれ合いから明るい学級づくりが期待できる。「目の前の子どもをより人間らしく育てる」の課題に対して、この資料集が先生方の手によって一層生かされるならば大変幸せなことだと考える次第である。

活用にあたって

本書を活用するには、次のような点を考慮して実践することが望ましい。

- ◎ 題材によっては短時間で終わるものもある。逆に2～3時間を要する場合もある。子どもの活動をみて、時間があればくり返して行う。
- ◎ 子どもの表現に羞恥心や気おくれ、てらいなどのみえる時は、全員が目を閉じて行うとか、お面をつけて活動させるとよい。
- ◎ どんな活動をするにも集中することは重要な点である。どんな表現活動をするにも、そのものになりきるよう配慮して集中させるように心がける。
- ㊦ 活動の開始とか、終わりの合図は、子どもにはっきりさせて、どんな活動の中でも、合図によって行動がとれるようにする。(シンバル、リズム太鼓の活用)
- ㊦ 活動をはじめる際は、できるだけ子どもを解放するように手たてるとよい。そのためには心の緊張と解放が行われる活動を準備するとよい。
- ◎ 合図の仕方や音楽の音量の違いなどを与えては、それらの感じ方で身体の活動がコントロールできるようにする。全員で活動をつくるには有効である。
- ◎ 活動の場所は教室でよいものもある。空間を広くしてのびのびと活動させることは、一人ひとりのスペースが与えられるので望ましい。
- ◎ 広い場所を望むなら、体育館・野外など利用して、活動にふさわしい場を与えてやりたい。
- ◎ 個々の表現を比べてみさせることは、よい、悪いという気持ちをもたせ「いい」ることにより、心をひらいて自信を出す子どもを誘う。ここで個性を認められ、心をひらきだすように助け合うことがよい結果をつくることになる。
- ◎ どんな活動をするにも集中することは欠かせない。いろんな状況に全注
意を傾けるようにとり組ませると、こうした能力が発揮されるようになる。

- ◎ はじめは五感をはたらかせる活動から始めることが、始めやすいようである。特に聴覚を活用させるものから入るとよいであろう。
- ◎ この活動には一つの答えになるものはないといってよい。だから、人と異った表現も笑ったり、活動の雰囲気をおぼわすことがらは除くようにする。
- ◎ 時間は短くても、集中して正しく行うようにするとよい結果が得られるものである。このため、短時間の活動でも回数を多くさせるとよい。
- ◎ はじめは、短いもので単純な活動から始める。一人でやれるものから次第に二人で、数人のグループで、と進めていくがよい。
- ◎ 基本的には、どんな活動をしていても個々の子どもの活動を助めることが大切である。自己のみつけた表現は、心の伴っていない安易なまねごとより尊重すべきことである。
- ◎ 豊かな活動をつくっていくためには、新しい題材を見つけ出し実践する心を大切にしたい。問題点の克服、⁴¹「通じずとも」でも意味がある。
- ◎ 子どもの発想を生かすことは、よろこびも大きくする。場面を途中で新しく展開させるために、子どもの話し合いでつくることも表現活動を助けたり励ますことになる。
- ◎ 表現活動では、個人の全ての感覚を集中してとり組むことが何といても大切なことである。指導では、何をどう表現しようとしているか、そのものになりきって自己を出し、その場やその状況に応じて精一杯自己を表現しているか見究めることができるかどうか重要な点である。

目 次

は じ め に

活用にあたって

<低 学 年>

気持ち・イメージづくり

- | | | |
|------------------|---------|----|
| 1、テレビカメラで見よう | (集中・感覚) | 6 |
| 2、風船をつかってワァー! | (") | 7 |
| 3、何て言ったのかな | (") | 8 |
| 4、どんな気持ちかな | (") | 9 |
| 5、手のひらでんぼう | (") | 10 |
| 6、耳が動くか?時間がわかるか? | (") | 11 |
| 7、口まねだけの会話 | (集中・想像) | 12 |
| 8、楽器のおはなし | (") | 13 |
| 9、つづき話をつくらう | (") | 14 |
| 10、わたしだれかな | (") | 15 |
| 11、できたよ、できたよ | (") | 16 |

身体・言語表現

- | | | |
|---------------|---------|----|
| 12、すばやく、すばやく | (身 体) | 17 |
| 13、トムとジェリー | (") | 18 |
| 14、真夜中のスパイ | (") | 19 |
| 15、みんなでよいしょ | (身体・感覚) | 21 |
| 16、大きな大きなふうせん | (身体・想像) | 22 |

17、〇〇をまねて	(身体・想像)	23
18、おいしいお食事	(“ ”)	24
19、もしも……………	(“ ”)	25
20、変身・変身・また変身	(身体・スピーチ)	26
21、イカが焼けた	(“ ”)	27
22、なんといったらいいでしょう	(スピーチ)	28
23、リズムにのって	(“ ”)	29
24、“さよならさんかく…………”	(“ ”)	30
25、すてきな名前でしょう	(スピーチ・想像)	31
26、絵のお話リレー	(“ ”)	32
27、“わらいかわせみに話すなよ”(スピーチ・身体)		33

総合的表現活動

28、おむすびころりん	(劇あそび)	34
29、四こままんが	(“ ”)	35
30、森のちとしまの	(“ ”)	37
31、一まいの写真から	(“ ”)	39

< 中 学 年 >

気持ち・イメージづくり

32、テレコの探険	(集中・感覚)	40
33、何のサインかな	(“ ”)	41
34、これはなんだ	(“ ”)	42
35、足は語る	(“ ”)	43
36、大地・木・岩と語ろう	(“ ”)	45
37、雨の音の中で	(集中・想像)	46
38、合わせ絵は？	(“ ”)	47
39、まほうのスカーフにおねがいしたら (“ ”)		49

40、私のイメージ	(集中・想像) ……………	51
-----------	---------------	----

身体・言語表現

41、まねっこダンス	(身体・感覚) ……………	53
42、暑いなあ、寒いなあ	(“ ”) ……………	55
43、忍者	(身体・想像) ……………	56
44、桜の花びら	(“ ”) ……………	57
45、もし先生に話したら	(スピーチ) ……………	59
46、でんわ	(“ ”) ……………	59
47、人形の国	(“ ”) ……………	61
48、いいわけ	(“ ”) ……………	63

総合的表現活動

49、オリンピック大会	(劇あそび) ……………	64
50、浦島太郎	(“ ”) ……………	65
51、じしゃくの国のまつり	(“ ”) ……………	67
52、コロンブスの冒険	(“ ”) ……………	69
53、おじいさんのひるね	(劇づくり) ……………	71
54、先生と子ども	(“ ”) ……………	73
55、探検	(“ ”) ……………	75

<高 学 年>

気持ち・イメージづくり

56、かかしさん大変だね	(集中) ……………	78
57、背中の感覚	(集中・感覚) ……………	79
58、熱いぞ、熱いぞ	(“ ”) ……………	80
59、連想あそび	(想像) ……………	81

60、お話づくり	(集中・想像)	82
61、すてきなハンカチ	(“)	83

身体・言語表現

62、みんないっしょ	(身体)	84
63、ドラエモンのゲーム	(“)	85
64、石運び	(身体・想像)	86
65、ビデオをみよう	(“)	87
66、言いまわしどおりに動こう	(“)	88
67、はいしゃさん	(身体・スピーチ)	89
68、きりなし	(スピーチ・想像)	91
69、つみあげばなし	(“)	92
70、カチャカチャテレビ	(“)	93
71、記者会見	(“)	94
72、さんぱつやさん	(スピーチ・身体)	95

総合的表現活動

73、夜店の人々	(劇あそび)	97
74、けだかの王様	(“)	99
75、探 険 (熱い国、寒い国)	(劇づくり)	101
76、島の探険	(“)	103
77、バスの停留所	(“)	105
78、お 別 れ	(“)	107
79、レコードを聴いて	(“)	109
80、山の中の一軒家	(“)	111
81、ガラスを割ったよ! どうしよう (“)	(“)	113
82、新桃太郎物語	(参加劇)	115
83、大きなおも	(“)	117

付 展 開 例

<低学年>	森のおとしもの	(劇あそび)	121
<中学年>	じしゃくの国のおまつり	(劇あそび)	123
<高学年>	山の中の一軒家	(劇づくり)	125